

潮音寺だより

第 252 号

平成 16 年 10 月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



人の悪きは
我が悪きなり

【舞】「じゆむね

〈撮影〉正道

相手の
態度
表情は
我が心を
映し出す鏡
怒れば
相手も
怒り
嫌えば
相手から
疎まれる
相手が悪いのは
他ならぬ
自分が悪いから

ノラの土産

栃木県小山市で起きた、幼い兄弟の誘拐・殺害事件、愛知県豊明市では、母子四人殺害・放火事件と、悲惨・残忍、そして、不可解な事件が、どうしてこんなにも多いのでしょうか。毎日のように、殺人事件の報道記事が、新聞紙面のどこかに載っているという状況は、やはり、異常であります。

凶悪な犯罪は、いつの時代にも確かに発生はしますが、ここ十年ほどの間に、ずいぶん多くなっているような気がします。

そこで、警視庁発表の刑法犯認知件数を調べてみましたら、凶悪犯（殺人・強盗・放火・強姦）の場合、平成六年と平成十四年との比較では、総数で一・七倍と、確かに急増しています。人口十万人

当たりの刑法犯犯罪率でみると、やはり凶悪犯の場合、平成六年は、五・八件であったのが、平成十四年では、九・九件になっています。ということは、私の住んでいる熱田区の人口は六万人強です。で、年間六件の凶悪犯罪が起こっているということになります。

ただ、平成十三年、日本の殺人認知件数が千四百三十六件、犯罪率一・一件であったのに対して、米国の場合、殺人認知件数、一万五千九百八十件、犯罪率、五・六件でありました。その十年前は、殺人認知件数、一万四千七百三件、犯罪率、九・八であったといえますから驚きです。この数字と比較すると、変に安心してしまいかねませんが、日本では、一日平

均、四件の殺人事件が起こっており、それを考えると、胸が痛くなります。

フランス、ドイツ、イギリスにしても、同年の殺人犯罪率は、日本の約三倍ですから、これからさらに増えてゆく可能性は、十分に考えられます。

そして、もう一つ特徴的なことは、来日外国人による犯罪が増えているということです。凶悪犯の平成六年の検挙件数のうち、来日外国人によるものの割合が二・五％であったのに対し、平成十四年には四・一％に増えています。しかも、これは、検挙された件数であって、来日外国人の場合、検挙率は日本人に比べて低いと考えられますので、実数はもっと多いと思われる。

実際、ここ数年、当方の地区でも、外国人による強盗が何件か起きておりますが、未だ検挙されておりません。それと、多発する凶悪テロ事件、明らかに犯罪と思われる戦争行為・行動が、リアルタイムで報道されてくるのを、茶の間のテレビで見ている我々…。やはり、どこか異常であります。

以上、日本の劣悪化傾向にある犯罪状況を知った上で、それぞれが、問題意識を持って、考えていかななくてはならないでしょう。

そこで、話はかわりますが、私どもの近所に、ノラ猫の親子がいます。隣の学生マンションの生ゴミが、曜日かまわず放置してありますので、食べ物には不自由していない様子です。しかも、猫好きな人がいて、エサを時々あげてい

るようです。

当然ながら、子どもを産んで増えますし、置き土産である糞害に、憤慨（フンガイ）するところとなります。その矛先は、猫はもちろん、マンションの住人、そして、そのオーナー、さらには、エサをあげている猫好きの人へと、怒りはどんどん広がっていくわけです。

ところが、いつも何う猫好きの花屋さんに、糞害に困っている話をしたところ、「猫のトイレをおごつてあげやあ」との返事だったと、家内が聞いてきました。なるほど、猫好きな人は、見る視点が違います。これまで、寄せ付けまい、追い払おうとはばかり考えていた自分が、少々恥ずかしく思えてきました。

ノラ猫は、好きこのんでノラ猫

をしているわけではありません。意地悪するつもりで糞をしていくわけではありません。彼らは、自分たちの生きる権利を主張しているにすぎないのです。そう思うようになったら、臭い糞の後片づけも、そう嫌でなくなってきたから不思議です。

これは、人間関係も同じなんですよ。殺人のような凶悪犯罪のすべてが、恨みから起こるわけではありませんが、視点を交えるだけで、この恨みから解放されるものです。「人の悪気は、我が悪気なり」のことわざを、みんなが噛みしめることが出来るようになれば、犯罪は、随分と減ると思えるのですが……。

ノラの土産は、私たちの良心を奮起（フンキ）させるものかも？

般若

はんにゃ

「般若」といって、眼をしろげ、牙をむいた恐ろしい形相の般若若面を思い出す方も多いかもしれませんが、仏教語の「般若」とは何の関係もありません。

能の「一」に鬼面の怨

霊が『般若経』を聞いて退散する場面があるところから、その鬼面を般若面と呼ぶようになったのではないかと一説があるだけです。


あるいは「般若」と聞いて『般若心経』を連想された方もあるかもしれませんが…。こちらは正解です。「般若」の語源はサンスクリット語で「ブジユナー」といい、悟りにいたるための「智慧」を意味し

ます。

「般若」その智慧とはいついつ智慧かといえます。『般若心経』に

住職通信

何が幸せといっても
何もな〜いといっても
幸せな〜いとはなし



「空」つまり、すべてのものであるがままにみれば、自分自身を含めて、実体のある

ものは「一」もなく、すべては「空」であることなのです。

では、「空」を知ればどうなるか。…まず、あらゆることに対するこだわりや執着がなくなり、心がいつも自由に解放された状態となつて、何の恐れもなくなり、悟りの世界に入ることができるようになる。…というのが『般若心経』の説いていることです。『仏教辞書』

雑記

感謝

彩色灯明(曼荼羅灯)が、彼岸施餓鬼会までに間に合う予定です。また、奇進者として、鬼頭一誠様・水野真様、そして、これまでに紹介いたしました方々のご芳名を、台座に書かせて頂きます。本当に、有り難うございます。感謝申し上げます。

施餓鬼会

これまで、施餓鬼会の折、待つて頂く時間が長く、「迷惑をおかけした」といふことで、お盆から、一座にたくさんの方に、立つて焼香して頂くよう改めました。なかなか好評のようです。😊

トンプオ飛ぶ音や

かそけき暮参り 沐魚

